

バリュー・ボンド・ファンド<為替リスク軽減型> (年1回決算型)
 (愛称:みらいの港)

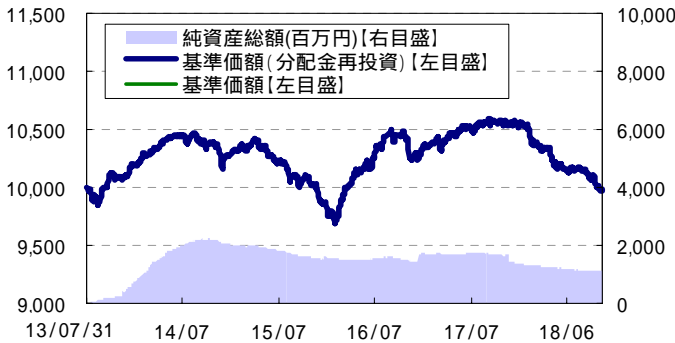
追加型投信/内外/債券

運用実績

基準価額および純資産

	2018/10/31	前月末比
基準価額	9,961円	-143円
純資産総額(百万円)	1,093	-31

基準価額の推移



・基準価額および基準価額(分配金再投資)は、信託報酬控除後の値です。
 ・信託報酬率については、後記の「ファンドの費用・税金」に記載しています。
 ・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

ファンド騰落率

	ファンド
過去1ヵ月	-1.42%
過去3ヵ月	-1.97%
過去6ヵ月	-2.75%
過去1年	-5.68%
過去3年	-1.16%
設定来	-0.39%

・ファンド騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。また、実際の投資者利回りとは異なります。

分配金実績(税引前)

決算期	分配金
第1期 (14/04/07)	0円
第2期 (15/04/06)	0円
第3期 (16/04/06)	0円
第4期 (17/04/06)	0円
第5期 (18/04/06)	0円
設定来累計	0円

・分配金実績(税引前)は、過去の実績であり、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

基準価額変動要因(概算値)

	当月
債券要因	97
為替要因	35
その他(信託報酬等)	11
分配金	0
当月基準価額変動額	143

(単位:円)

・基準価額変動要因は、組入債券の値動き、為替変動の影響等が基準価額に与えた影響をご理解いただくために簡便的に計算した概算値であり、その正確性、完全性等を保証するものではありません。

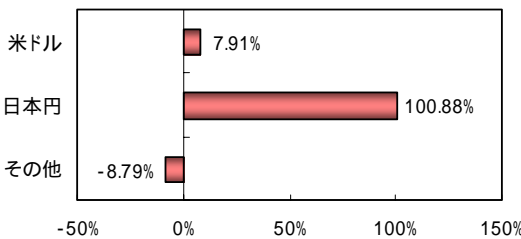
ポートフォリオの状況

・ポートフォリオの状況は、原則として実質的な投資を行う外国投資信託「マルチセクターバリューボンドファンド - JPYヘッジドクラス/JPYノンヘッジドクラス」の状況を、運用会社であるアムンディ・パイオニア・インスティテューショナル・アセット・マネジメント・インク等の資料(現地月末前営業日基準)に基づいて三菱UFJ国際投信が作成したものです。

ポートフォリオ特性値

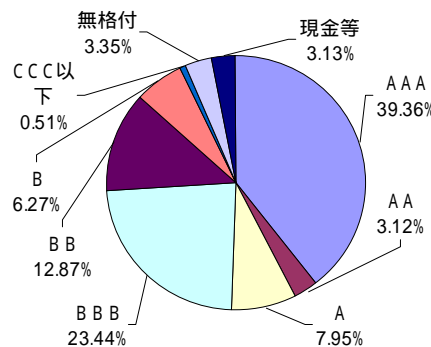
最終利回り	4.66%
直接利回り	4.15%
平均残存年数	8.15年
デュレーション	4.90年

通貨別構成比



・実質的な投資を行う外国投資信託が保有する資産の通貨別構成比を表します。

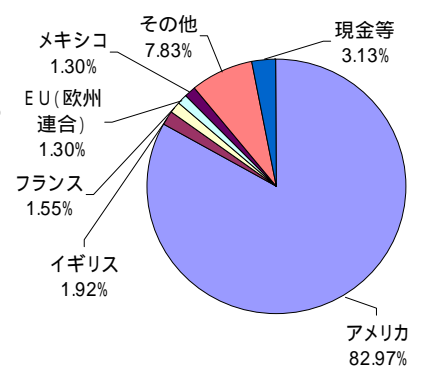
格付分布



平均格付

平均格付 A
 ・平均格付とは、基準日時点で当該ファンドが保有している有価証券に係る信用格付を加重平均したものであり、当該ファンドに係る信用格付ではありません。

組入上位5ヵ国



組入上位10銘柄

銘柄名	クーポン	償還日	種別	国名	格付	比率
1 米国国債	1.000%	2046/02/15	国債	アメリカ	AAA	2.83%
2 米国国債	2.500%	2020/06/30	国債	アメリカ	AAA	2.33%
3 米国国債	0.000%	2018/11/08	国債	アメリカ	AAA	1.77%
4 米国国債	2.750%	2021/08/15	国債	アメリカ	AAA	1.73%
5 米国国債	2.500%	2020/05/31	国債	アメリカ	AAA	1.66%
6 米国国債	1.750%	2019/11/30	国債	アメリカ	AAA	1.66%
7 米国国債	0.750%	2045/02/15	国債	アメリカ	AAA	1.58%
8 リバティ・ミューチュアル・インシュアランス	7.697%	2097/10/15	投資適格社債	アメリカ	BBB+	0.91%
9 米国国債	1.875%	2022/09/30	国債	アメリカ	AAA	0.83%
10 連邦住宅金融抵当公庫債	4.000%	2044/09/01	資産担保証券・モーゲージ証券	アメリカ	AAA	0.80%

(組入銘柄数: 504銘柄)

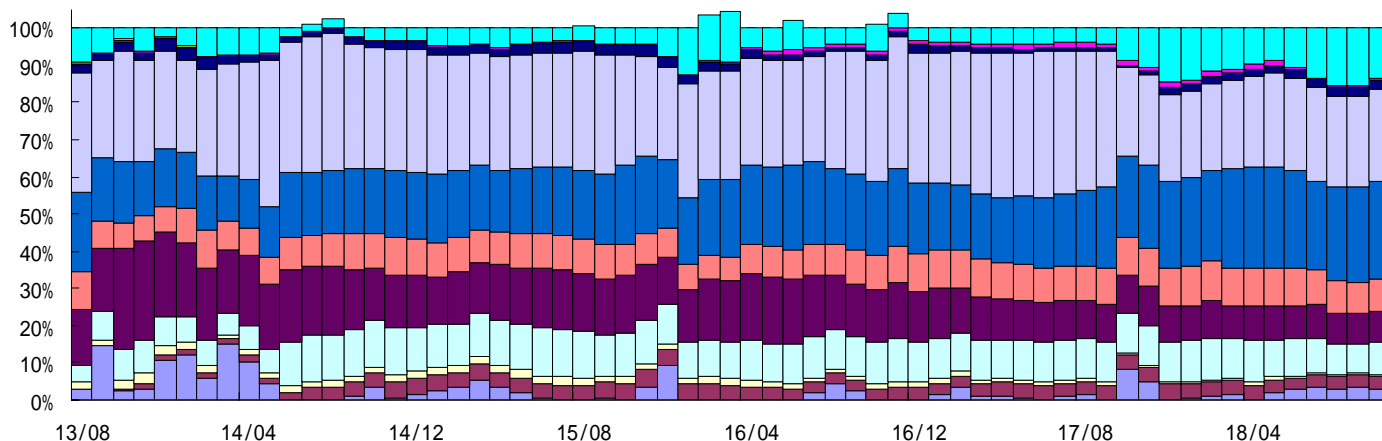
後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

各項目の説明・留意事項等については、
 [各種データに関する補足説明等]をご覧ください。

バリュー・ボンド・ファンド<為替リスク軽減型>(年1回決算型) [愛称:みらいの港]

ポートフォリオの状況

債券セクター別構成の推移

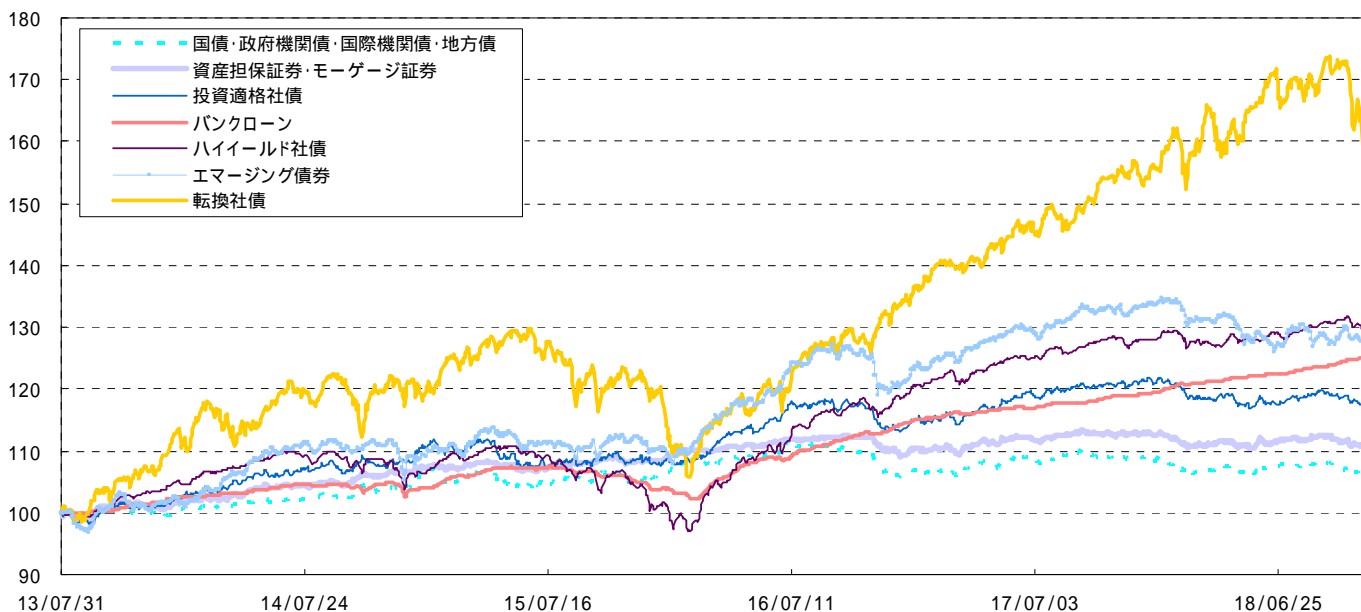


債券セクター別構成

セクター	比率
国債	13.48%
政府機関債	0.00%
国際機関債	0.30%
地方債	2.54%
資産担保証券・モーゲージ証券	25.03%
投資適格社債	26.23%
バンクローン	8.73%
ハイイールド社債	8.30%
エマージング債券	8.50%
転換社債	0.41%
その他	3.55%
現金等	2.93%

- 国債 : 各国政府が発行する債券で、一般的に安全性が最も高い。
- 政府機関債 : 政府関係機関が発行する債券。
- 国際機関債 : 国際的な組織である国際機関が、主に、特定の地域の経済発展や開発プロジェクトへの資金供給のため、発行している債券。
- 地方債 : 地方政府等が発行する債券で、一般に国債同様安全性は高い。
- 資産担保証券・モーゲージ証券 : 資産担保証券は、カード・自動車ローン等のローン債権を担保として、モーゲージ証券は住宅ローン等の債権を担保として発行された証券。
- 投資適格社債 : 企業が発行するBB格相当以上の格付を付与された債券。
- バンクローン : 銀行等の金融機関が主に投資適格未満の事業会社等に対して行う貸付債権(ローン)。
- ハイイールド社債 : 企業が発行するBB格相当以下の低い格付を付与された債券。
- エマージング債券 : 新興経済国の政府、政府機関、企業等が発行する債券。先進国の国債等と比較して信用力が低い代わりに利回りが高くなる傾向がある。
- 転換社債 : 一定の条件で株式に転換できる権利のついた社債やこれと同様の性質を有する有価証券。
- その他 : 上記以外の債券。
- 現金等 : 当ファンドが投資する外国投資信託において保有する現金等。

各債券セクター市況の推移(設定来)



・上記は、各セクターの動きを示すものとして代表的な指数(ドルベース)を参照しています。

後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

各項目の説明・留意事項等については、
[各種データに関する補足説明等]をご覧ください。

バリュエーション・ボンド・ファンド < 為替リスク軽減型 > (年1回決算型) 【愛称:みらいの港】

・コメントは、「マルチ セクター バリュエーション ボンド ファンド - JPYヘッジド クラス/JPYノンヘッジド クラス」の運用会社であるアムンディ・パイオニア・インスティテューショナル・アセット・マネジメント・インク等の資料に基づいて三菱UFJ国際投信が作成したものです。

運用担当者コメント

市況動向

【世界の米ドル建て債券市況は下落】

10月の世界の米ドル建て債券市況は、代表的な指数であるブルームバーグ・バークレイズ米ドル建てユニバーサル指数(ドルベース)で見ると下落しました。
 米国の長期金利は、米国で発表された経済指標が概ね堅調だったことや、中旬に公表された米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録において漸進的な利上げ見通しが維持されたこと等を背景に上昇しました。このような環境下、世界の米ドル建て債券市況は、債券利子収入を享受したこと等がプラスとなったものの、米国の長期金利が上昇したことや、スプレッドが拡大したこと等がマイナスとなり、前月末比で下落しました。

運用状況

【基準価額は下落】

当ファンドは、外国投資信託への投資を通じて、世界の米ドル建てを中心とする公社債等を高位に組み入れるとともに、原則として、当該外国投資信託の純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の米ドル売り円買いの為替取引を行い為替変動リスクの低減を図る運用を行いました。
 種別配分では、ハイイールド社債やバンクローン等への投資を市場対比多めとする一方、国債等への投資を市場対比少なめとしました。転換社債については、株価上昇の恩恵を受けやすく、債券対比で魅力的と見られる一部銘柄を戦略的に組み入れました。なお、バリュエーション面で魅力的と判断した地方債も一部保有しています。格付配分では、AAA格への投資を市場対比少なめとする一方、投資適格の中でもBBB格の組み入れを市場対比多めとした他、BB格とB格のハイイールド銘柄への投資を市場対比多めとしました。デュレーションは市場対比やや短めの水準としました。
 上記のような運用を行った結果、債券利子収入を享受したこと等がプラスとなったものの、世界の米ドル建て債券市況が下落したことや信託報酬等のコスト等がマイナスとなり、当ファンドの基準価額は前月末に比べ下落しました。

今後の運用方針

【世界の債券市場を取り巻く環境に注意しながら、個別銘柄の選別に注力】

米国では、個人消費や住宅市場を中心に、今後も景気回復が続くと見られ、ファンダメンタルズの改善は世界の米ドル建て債券市況のサポート要因になると考えます。一方で、このような米国経済の回復を背景に、インフレが加速することが想定されます。当ファンドでは将来の金利上昇リスクに備えるため、デュレーションを状況に応じて機動的に対応します。また、エネルギーなど一部の業種を除き、企業の良好なファンダメンタルズと低水準のデフォルト(債務不履行)率に比べ、足下のクレジットスプレッドは妥当な水準にあると判断し、ハイイールド社債、バンクローンを引き続き市場対比多めに組み入れる方針です。エマージング債券については、選別的に組み入れる方針です。銘柄選択に当たっては、バリュエーションを徹底的に分析し、良質な債券などを割安な水準で組み入れることをめざします。また、金利サイクルや市場環境の変化などに応じて投資比率を機動的に変更していく方針です。

<アムンディ・パイオニア・インスティテューショナル・アセット・マネジメント・インクについて>

- ・アムンディ・パイオニア・インスティテューショナル・アセット・マネジメント・インクはアムンディ・グループの米国ビジネス部門であるアムンディ・パイオニア傘下の運用会社で、1928年にボストンで設立されたパイオニア・インベストメンツ・グループを起源とします。
- ・アムンディ・グループは、フランスのユニバーサルバンク、クレディ・アグリコール・グループの資産運用部門で、世界トップクラスの運用残高を運用しています。



コメントは作成時点のものであり将来予告なく変更されることがあります。
 また、将来の市場環境の変化または運用成果等を保証するものではありません。なお、市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

バリュー・ボンド・ファンド<為替リスク軽減型>(年1回決算型)【愛称:みらいの港】

【各種データに関する補足説明等】

本資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

各ページ共通

表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。/ 基準価額および分配金は1万口当たりです。

運用実績

基準価額の推移

- ・基準価額、基準価額(分配金再投資)は設定日(2013年7月31日)を10,000として指数化しています。
- ・基準価額および基準価額(分配金再投資)は、信託報酬控除後の値です。
- ・信託報酬率については、後記の「ファンドの費用・税金」に記載しています。
- ・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

騰落率

- ・ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。
- ・また、ファンドの騰落率と実際の投資者利回りは異なります。
- ・設定来のファンドの騰落率は、10,000を起点として計算しています。

ポートフォリオの状況

下記項目は、原則として実質的な投資を行う外国投資信託「マルチ セクター バリュー ボンド ファンド - JPYヘッジド クラス/JPYノンヘッジド クラス」の状況を、運用会社であるアムンディ・バイオニア・インスティテューショナル・アセット・マネジメント・インク等の資料(現地月末前営業日基準)に基づいて三菱UFJ国際投信が作成したものです。

ポートフォリオ特性値

- ・特性値は、実質的な投資を行う外国投資信託ベースです。
- ・最終利回りは、個別債券等について満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。
- ・直接利回りは、個別債券等についての表面利率を加重平均したものです。
- ・デュレーションは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。
- ・最終利回り、デュレーションは債券先物を含めて計算しています。
- ・平均残存年数は、各債券等の残存年数を加重平均したものです。
- ・原則として、直近の繰上償還可能日を基に算出しています。

通貨別構成比

- ・実質的な投資を行う外国投資信託が保有する資産の通貨別構成比(各通貨でのキャッシュ含む)を表します。
- ・「為替リスク軽減型」において日本円は、米ドル売り円買いの為替取引考慮後のもの。
- ・「その他」は米ドル、日本円以外の通貨。米ドル売り円買いの為替取引によっては、マイナスとなる場合があります。

格付分布

- ・実質的な投資を行う外国投資信託が保有する債券等の格付分布を表示。
- ・比率は、実質的な投資を行う外国投資信託の純資産総額に対する割合。
- ・格付の表示にあたっては、S & P社、Moody's社の2社のうち最も高い格付を表示しています。
- ・上記2社の格付を取得していない場合は、無格付としていますが、アムンディ・バイオニア・インスティテューショナル・アセット・マネジメント・インクにおいて独自の格付判断に基づき投資したものです。
- ・平均格付とは、基準日時点で当該ファンドが保有している有価証券に係る信用格付を加重平均したものであり、当該ファンドに係る信用格付ではありません。

組入上位5ヶ国

- ・比率は、実質的な投資を行う外国投資信託の純資産総額に対する国別の割合。
- ・国名は、ブルームバーグ・バークレイズ・インデックスの分類を採用、分類されていない場合はアムンディ・バイオニア・インスティテューショナル・アセット・マネジメント・インクによる独自の分類を採用しています。

本資料で使用している指数について

・ブルームバーグ・バークレイズ米国国債インデックスとは、ブルームバーグが算出する米国の国債の値動きを示す代表的な指数です。・ブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックスとは、ブルームバーグが算出する米国のモーゲージ証券の値動きを示す代表的な指数です。・ブルームバーグ・バークレイズ米国コーポレート・インデックスとは、ブルームバーグが算出する米国の投資適格社債の値動きを示す代表的な指数です。・ブルームバーグ・バークレイズ米ドル建てユニバーサル指数とは、ブルームバーグが算出する世界の米ドル建て債券の値動きを示す代表的な指数です。ブルームバーグ(BLOOMBERG)は、ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピー(Bloomberg Finance L.P.)の商標およびサービスマークです。バークレイズ(BARCLAYS)は、ライセンスに基づき使用されているバークレイズ・バンク・ビーエルシー(Barclays Bank Plc)の商標およびサービスマークです。ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーおよびその関係会社(以下「ブルームバーグ」と総称します。)またはブルームバーグのライセンサーは、ブルームバーグ・バークレイズ・インデックス(BLOOMBERG BARCLAYS INDICES)に対する一切の独占的権利を有しています。

・S & P / LSTA パフォーミング・ローン・インデックスとは、S & P社と米国のローン市場の業界団体であるLSTA(ローン・シンジケート・アンド・トレーディング・アソシエーション)との提携のもとに算出されている。バンクローンの値動きを表す代表的な指数です。

・J.P.モルガンEMBIグローバル・ダイバーシファイドとは、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している米ドル建てのエマージング国債および国債に準じる債券のパフォーマンスを表す指数で、指数構成国の組入比率に調整を加えた指数です。組入比率の調整を行わない指数としてJ.P.モルガンEMBIグローバルがあります。同指数は、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが発表しており、著作権はJ.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属しております。

・ICE BofAML 米国ハイ・イールド・コンストレインド指数とは、ICE Data Indices, LLCが算出する米国のハイ・イールド債券の値動きを表す指数です。・ICE BofAML 米国転換社債指数とは、ICE Data Indices, LLCが算出する米国の転換社債の値動きを表す指数です。両指数は、ICE Data Indices, LLC、ICE Dataまたはその第三者の財産であり、三菱UFJ国際投信は許諾に基づき使用しています。ICE Dataおよびその第三者は、使用に関して一切の責任を負いません。

分配金実績(税引前)

- ・直近6期の分配金実績(税引前)。決算日は毎年4月6日(休業日の場合は翌営業日)。
- ・分配金は、過去の実績であり、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
- ・運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

基準価額変動要因(概算値)

- ・基準価額の変動を要因別に簡便的に算出したものです。
- ・債券要因、為替要因は、主として当該ファンドが投資する外国投資信託にかかる損益を表します。
- ・「その他(信託報酬等)」には、当該ファンドで発生する信託報酬のほか、マネー・マーケット・マザーファンドでの損益、設定・解約の影響などが含まれます。

組入上位10銘柄

- ・比率は、実質的な投資を行う外国投資信託の純資産総額に対する割合。
- ・国名は、ブルームバーグ・バークレイズ・インデックスの分類を採用、分類されていない場合はアムンディ・バイオニア・インスティテューショナル・アセット・マネジメント・インクによる独自の分類を採用しています。
- ・償還日"***"は、償還年月日を特定していない銘柄です。
- ・格付の表示にあたっては、S & P社、Moody's社の2社のうち最も高い格付を表示しています。

債券セクター別構成・債券セクター別構成の推移

- ・比率は、実質的な投資を行う外国投資信託の純資産総額に対する割合。
- ・債券セクターは、ブルームバーグ・バークレイズ・インデックスの分類を採用、分類されていない場合はアムンディ・バイオニア・インスティテューショナル・アセット・マネジメント・インクによる独自の分類を採用しています。
- ・表示のセクター以外の債券がある場合は、「その他」に分類しています。
- ・債券セクター別構成の推移は、凡例の配列順に沿って構成グラフを表示しています。

各債券セクター市況の推移(設定来)

- ・設定日を100として指数化。
- ・各セクターの動きを示すものとして下記の指数を参照しております。
- 【国債・政府機関債・国際機関債・地方債】:ブルームバーグ・バークレイズ米国国債インデックス
- 【資産担保証券・モーゲージ証券】:ブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックス
- 【投資適格社債】:ブルームバーグ・バークレイズ米国コーポレート・インデックス
- 【バンクローン】:S & P / LSTA パフォーミング・ローン・インデックス
- 【ハイイールド社債】:ICE BofAML 米国ハイ・イールド・コンストレインド指数
- 【エマージング債券】:J.P.モルガンEMBIグローバル・ダイバーシファイド
- 【転換社債】:ICE BofAML 米国転換社債指数

後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

バリュー・ボンド・ファンド<為替リスク軽減型>(年1回決算型)【愛称:みらいの港】

ファンドの目的・特色

ファンドの目的

世界(新興国を含みます。)の米ドル建てを中心とする公社債等を実質的な主要投資対象とし、利子収益の確保および値上がり益の獲得をめざします。

ファンドの特色

投資対象 世界(新興国を含みます。以下同じ。)の米ドル建てを中心とする公社債等が実質的な主要投資対象です。

・主として円建外国投資信託への投資を通じて、世界の米ドル建てを中心とする公社債等に実質的な投資を行います。また、証券投資信託であるマネー・マーケット・マザーファンド(わが国の短期公社債等に投資)への投資も行います。

・世界の幅広い種類の公社債等(米ドル建て以外の通貨建てのものを含みます。)へ投資を行います。

ファンドが投資する主な公社債等は以下のとおりです。

- ・国債・地方債・政府機関債
- ・投資適格社債
- ・ハイイールド債券
- ・資産担保証券・モーゲージ証券
- ・バンクローン
- ・転換社債

上記の債券が組入れられない場合や、上記以外の債券が組入れられる場合があります。

運用方法 投資対象とする円建外国投資信託への投資は高位を維持することを基本とします。

- ・投資対象とする円建外国投資信託は、アムンディ・パイオニア・インスティテューショナル・アセット・マネジメント・インクが運用を行います。
- ・投資対象とする円建外国投資信託において、世界の幅広い種類の公社債等への投資を行うことにより、トータル・リターン(公社債等の利子および値上がりによる収益)の獲得をめざします。
- ・公社債等への投資にあたっては、経済、金利および政策動向に関する見通しに基づいて、債券種別の配分比率を変更します。

為替対応方針 「為替リスク軽減型」と「為替ヘッジなし」の2つがあります。

- ・「バリュー・ボンド・ファンド<為替リスク軽減型>(年1回決算型)」は、原則として、投資する円建外国投資信託において、当該外国投資信託の純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の米ドル売り円買いの為替取引を行い、為替変動リスクの低減を図ります。
- ・「バリュー・ボンド・ファンド<為替ヘッジなし>(年1回決算型)」は、原則として為替ヘッジを行わないため、為替相場の変動による影響を受けます。

ファンドの仕組み

・ファンド・オブ・ファンズ方式により運用を行います。

<投資対象ファンド>

マルチ セクター バリュー ボンド ファンド JPYヘッジド クラス(<為替リスク軽減型>が投資します。)

マルチ セクター バリュー ボンド ファンド JPYノンヘッジド クラス(<為替ヘッジなし>が投資します。)

マネー・マーケット・マザーファンド(わが国の短期公社債等に投資)

- ・各ファンド間でスイッチングが可能です。スイッチングの際は、換金するファンドに対して税金がかかります。スイッチングの購入時手数料は、販売会社が定めるものとします。販売会社によっては、スイッチングの取扱いを行わない場合があります。詳しくは販売会社にご確認ください。
- ・販売会社によっては、いずれか一方のファンドのみ取り扱う場合があります。詳しくは販売会社にご確認ください。

分配方針

・年1回の決算時(4月6日(休業日の場合は翌営業日))に分配金額を決定します。

・分配金額は委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。(基準価額水準や市況動向等により変更する場合があります。)

将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

「バリュー・ボンド・ファンド<為替リスク軽減型>/<為替ヘッジなし>」には、決算日および分配方針の異なる『毎月決算型』があります。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

バリュー・ボンド・ファンド<為替リスク軽減型>(年1回決算型)【愛称:みらいの港】
投資リスク
基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

価格変動 リスク	<p>一般に、公社債等の価格は市場金利の変動等を受けて変動するため、ファンドはその影響を受け組入公社債等の価格の下落は基準価額の下落要因となります。</p> <p>また、転換社債は、株式および債券の両方の性格を有しており、株式および債券の価格変動の影響を受け、組入転換社債の価格の下落は基準価額の下落要因となります。</p>
為替変動 リスク	<p>バリュー・ボンド・ファンド<為替リスク軽減型>(年1回決算型)</p> <p>組入外貨建資産の米ドル換算した額については、米ドル売り、円買いの為替取引を行い、円に対する米ドルの為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。また、組入外貨のうち、米ドル以外の通貨については、米ドルに対する当該通貨の為替変動の影響を受けます。なお、円の金利が米ドルの金利より低いときには、これらの金利差相当分が為替取引によるコストとなります。ただし、為替市場の状況によっては、金利差相当分以上の為替取引によるコストとなる場合があります。</p> <p>バリュー・ボンド・ファンド<為替ヘッジなし>(年1回決算型)</p> <p>組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いませんので、為替変動の影響を大きく受けます。</p>
信用 リスク	<p>組入有価証券等(バンクローンを含みます。以下同じ。)の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等には、当該組入有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払い・償還金の支払いが滞ることがあります。</p>
流動性 リスク	<p>有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合または取引が不可能となる場合、市場実勢から期待される価格より不利な価格での取引となる可能性があります。また、バンクローンは、公社債と比べ、一般的に取引量も少ないため、流動性リスクも高い傾向にあります。</p>
カントリー・ リスク	<p>新興国への投資は、先進国への投資を行う場合に比べ、投資対象国におけるクーデターや重大な政治体制の変更、資産凍結を含む重大な規制の導入、政府のデフォルト等の発生による影響を受けることにより、価格変動・為替変動・信用・流動性の各リスクが大きくなる可能性があります。</p>

ファンドは、格付けの低いハイイールド債券、資産担保証券、バンクローンおよび転換社債も投資対象としており、格付けの高い公社債等への投資を行う場合に比べ、価格変動・信用・流動性の各リスクが大きくなる可能性があります。

その他の留意点

・ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。

・収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。

投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

バリュー・ボンド・ファンド<為替リスク軽減型>(年1回決算型)【愛称:みらいの港】
手続・手数料等
お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位 / 販売会社にご確認ください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額 基準価額は1万口当たりで表示されます。基準価額は委託会社の照会先でご確認ください。
換金単位	販売会社が定める単位 / 販売会社にご確認ください。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して7営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込不可日	次のいずれかに該当する日には、購入・換金はできません。 ・ニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行の休業日 ・ニューヨークにおける債券市場の取引停止日 具体的な日付については、委託会社のホームページ(「ファンド関連情報」内の「お申込み不可日一覧」)をご覧ください。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情(投資対象証券の購入・換金の制限、投資対象国における非常事態(金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等)による市場の閉鎖もしくは流動性の極端な減少等)があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。
信託期間	2023年4月6日まで(2013年7月31日設定)
繰上償還	受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合、またはバリュー・ボンド・ファンド<為替リスク軽減型>(年1回決算型)、バリュー・ボンド・ファンド<為替ヘッジなし>(年1回決算型)、バリュー・ボンド・ファンド<為替リスク軽減型>(毎月決算型)、バリュー・ボンド・ファンド<為替ヘッジなし>(毎月決算型)の受益権の口数を合計した口数が30億口を下回ることとなった場合等には、信託期間を繰上げて償還となることがあります。 なお、投資対象とする外国投資信託が償還する場合には繰上償還となります。
決算日	毎年4月6日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回の決算時に分配金額を決定します。(分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。) 販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人受益者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となることがあります。くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

バリュー・ボンド・ファンド<為替リスク軽減型>(年1回決算型)【愛称:みらいの港】

手続・手数料等

ファンドの費用

お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料 購入価額に対して、**上限3.24%(税抜3%)**(販売会社が定めます)
(購入される販売会社により異なります。くわしくは、販売会社にご確認ください。)

信託財産留保額 ありません。

お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	当該ファンド	日々の純資産総額に対して、 年率1.1664%(税抜年率1.08%) をかけた額
	投資対象とする 投資信託証券	投資対象ファンドの純資産総額に対して 年率0.6% (マネー・マーケット・マザーファンドは除きます。)
	実質的な負担	当該ファンドの純資産総額に対して 年率1.7664%程度(税抜年率1.68%程度) 投資対象とする投資信託証券の信託(管理)報酬率を合わせた実質的な信託報酬率です。 投資対象とする投資信託証券には、最低報酬額が適用される場合があるため、純資産総額によっては上記の率を超えることがあります。
その他の費用・ 手数料	監査法人に支払われるファンドの監査費用・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用・その他信託事務の処理にかかる諸費用等についてもファンドが負担します。 上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。	

運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、毎計算期間の6ヵ月終了時、毎決算時または償還時にファンドから支払われます。

上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。なお、ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

本資料のご利用にあたっての注意事項等

本資料は、三菱UFJ国際投信が作成した資料です。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。本資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

委託会社(ファンドの運用の指図等)

三菱UFJ国際投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号

加入協会: 一般社団法人 投資信託協会

一般社団法人 日本投資顧問業協会

<ホームページアドレス> <https://www.am.mufig.jp/>

<お客さま専用フリーダイヤル> 0120 - 151034

(受付時間 営業日の9:00 ~ 17:00)

受託会社(ファンドの財産の保管・管理等)

三菱UFJ信託銀行株式会社

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

販売会社情報一覧表

ファンド名称: バリューストック・ファンド<為替リスク軽減型> (年1回決算型)

商号	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人 日本 投資顧問業 協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種 金融商品 取引業協会
株式会社 あおぞら銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第8号				
株式会社 足利銀行(*)	登録金融機関 関東財務局長(登金)第43号				
株式会社 伊予銀行	登録金融機関 四国財務局長(登金)第2号				
株式会社 岩手銀行	登録金融機関 東北財務局長(登金)第3号				
株式会社 SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号				
カブドットコム証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第61号				
株式会社 京都銀行	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第10号				
くんぎん証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2938号				
株式会社 群馬銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第46号				
ごうぎん証券株式会社	金融商品取引業者 中国財務局長(金商)第43号				
株式会社 山陰合同銀行	登録金融機関 中国財務局長(登金)第1号				
四国アライアンス証券株式会社	金融商品取引業者 四国財務局長(金商)第21号				
株式会社 十六銀行	登録金融機関 東海財務局長(登金)第7号				
株式会社 常陽銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第45号				
高木証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第20号				
株式会社 千葉銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第39号				
株式会社 中京銀行	登録金融機関 東海財務局長(登金)第17号				
浜銀IT証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第1977号				
株式会社 北海道銀行	登録金融機関 北海道財務局長(登金)第1号				
株式会社 横浜銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第36号				
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号				

商号欄に(*)の表示がある場合、新規申込のお取扱いを中止しております。